

210214八栗シオンキリスト教会礼拝宣教参考資料～キリスト教史近世①

	時期	出来事
古代	1-5世紀 西ローマ帝国滅亡まで	①ローマ帝国によるキリスト教の迫害 ②教会内部での異端の問題 ③教会会議、正統的信仰の確立
中世	5-15世紀 宗教改革まで	①教皇権の絶頂期（インノケンティウス3世） →ヨーロッパ社会における教会の存在感の高まり ②西欧での修道院制の始まり（ベネディクト会、托鉢修道会） ③スコラ学の誕生（アンセルムス、トマス・アキナスなど）
近世	16世紀 宗教改革	①ルターの回心 ②プロテスタントの誕生（ルーテル派、改革派、再洗礼派など） ③カトリックの対抗宗教改革

1. ルターの回心～神の義の発見

- ・ルターは1483年にドイツのザクセン地方のアイスレーベンに誕生
- ・父ハンスはの家は永代賃借農家であったが、ザクセンで銅鋳夫をし、精錬所の経営者となり、成功する。
- 「努力して成功する」という生き方はルターにも大きな影響を与えた。
- ・ハンスの教育方針により、ルターは幼い頃から様々な学校で、勉強に励んだ。
- ・エルフルト大学に入学し、修士課程を終えて、博士課程に進んだ。
- ・故郷に帰省していたルターは大学のあるエルフルトへ戻るときに、劇的な経験をし、修道士になることを誓う。
- ・エアフルトのアウグスティヌス隠修修道会に入り、修道士として完璧な生活を目指す。
- ・しかし、罪の問題に苛まれ、苦悩する。
- ・上司から、神学研究を命じられ、エルフルト大学、ヴィッテンベルク大学で神学を修め、神学博士を取り、その後、ヴィッテンベルク大学の教授に就任し、聖書を教え始める。
- ・まず、詩篇の講義をはじめ。そのとき「神の義」についての新たな理解に導かれる。
- ・「神の義」は人を裁く義であると同時に、人を救う義であることに気づかされる（塔の体験）。
- ・その後の聖書講義を通して、神の義についての理解を深め、十字架の神学を確立する。

2. 95箇条の提題

- ・ルターは、その当時販売されていた贖宥状について疑問を抱き、「95箇条の提題」を発表する。これが徐々に人々に広まり、大きな波紋をもたらすことになる。
- ・その後、教皇制や sacrament など、当時のカトリック教会の制度に対しても問題提起をしていく。プロテスタント教会が誕生していく。

3. 宗教改革の原理

- | | |
|-----------------------|----------|
| ① 聖書のみ（聖書主義） | ①～③ |
| ② 信仰のみ（信仰義認） | 宗教改革三大原理 |
| ③ 万人祭司（教皇制・公会議の権威の否定） | |
| ④ sacrament は洗礼と聖餐のみ | |
| ⑤ 実体変化説（化体説）の否定 | |
| ⑥ 聖職者の結婚の容認 | |